

2008 年

8 月 20 日（水曜日） - ほんのり洩れ射す内なる努力と情熱の光沢こそ魅力の源 -

本日、市内の観光やまちづくりの関係の皆様はじめ広く関係者の皆様に集まっていただけで、「京丹後市観光振興条例・観光振興計画検討委員会（仮称）」を開催させていただきました。

本市の観光を巡りましては、従来から、通年の温泉とともに、夏季の海水浴、冬季のカニ等海産物を楽しまれる皆様を中心に毎年たくさんのお客様に御来丹いただいています。近年、観光ニーズの多様化、観光地間の競争激化などの要因により、概して足踏み状態も続いておりますが、当市の地域資源の潜在的な魅力の豊富さ、時代的な価値の貴重さからすれば、今後ますます大きな発展の可能性が期待されています。

そんな中、本年 4 月に、本市の 6 つの旧町の観光協会の調整が整い合併をされ、4 年前の新市誕生以来待望をされていた京丹後市観光協会が新たに御発足をみたわけですが、市域を代表する観光協会が発会されたこの機会に、旧 6 町にわたる豊富な海、山、里の自然資源、農林水産資源、古代歴史資源、ものづくり・織物産業資源などの当市の多様で広範な地域資源の全てを、かけがえのない観光資源として一体的・体系的に連携と活用を推進し、これら観光資源を引き続き磨き上げながら同時に観光資源間の様々なネットワークを創造し地域全体の魅力を増進し続けていくとともに、これにより広く体験型、滞在型の総合的な観光を推進していくことが今強く求められています。

このため、本日発足しました検討委員会において、市域全域に広がる様々な観光資源のネットワーク化を図り、もってオールシーズン繁栄する体験型、滞在型の観光を進めるための制度的な支援環境の整備、地域別の総合観光振興計画の策定等を目指した検討を多様な立場、観点からしていただくこととしています。

京丹後市には、様々な自然資源、農林水産資源など、現代社会が地球規模で時代的に求める環境や健康、癒しにつながる価値や魅力の地域資源がふんだんに在ります。しかしながら、よく見れば足元に観光の「光」もふんだんに満ちているけれども、実は、慣習的、日常的な視線の外にあって本物の宝と気づかずにやり過ごされている原石がまだまだたくさんあるのではないかと考えています。その中で、大切なこととして、今一度、常識的な角度の視線は少し伏せ置いて、あらゆる地域資源、地域環境の中に観光資源となりうる魅力の原石がないかどうか探り当てながら、原石の光沢への気づきをますます拡げていくこと、そして、それぞれの恵みへの感謝を深めていくことこそがまずは今改めて私達に問われているのではないかと感じています。そんな深い感謝や喜びを自らのものとしそれと共にあって初めて、原石のそれぞれをより人に喜ばれる立派な観光資源へと七転び八起きで磨き上げていこうとする、あきらめのない勇気と情熱も私達の中でたおれてもくじけても湧きいで続けてくるのではないのでしょうか。そして何より、まず

は私達自身が感謝と喜びをにじませて懸命に邁進していくその後ろ姿と、その積み重ねからほんのり洩れ射し輝き透けてくる内なる努力と情熱の光沢こそが、実は人々を引き寄せていく魅力の引力の源となっていくのではないかと思います。既に地域に与えていただいている多様な観光資源への気づきと感謝をいよいよ深めそれらを練磨し、地域全体の魅力を増進していく永続の願いのため、うつむかない、あきらめない心の灯こそ永く大事にしていきたい。